

デーヴォ ガイド



2024.9.23-29

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

➤ 23日 月曜

ネヘミヤ

11:10 祭司のうちでは、エホヤリブの子エダヤと、ヤキン、
11:11 ヒルキヤの子セラヤであった。ヒルキヤはメシュラムの子、メシュラムはツアドクの子、ツアドクはメラヨテの子、メラヨテはアヒトブの子である。セラヤは神の宮のつかさであった。
11:12 彼らの同族で宮の務めをする者は八百二十二人。また、エロハムの子アダヤ。エロハムはペラルヤの子、ペラルヤはアムツイの子、アムツイはゼカリヤの子、ゼカリヤはパシュフルの子、パシュフルはマルキヤの子である。
11:13 アダヤの同族で一族のかしらたちは二百四十二人。また、アザルエルの子アマシュサイ。アザルエルはアフザイの子、アフザイはメシレモテの子、メシレモテはイメルの子である。
11:14 彼らの同族の勇士たちは百二十八人。彼らの監督者はハゲドリムの子ザブディエルであった。
11:15 レビ人のうちでは、ハシュブの子シエマヤ。ハシュブはアズリカムの子、アズリカムはハシャブヤの子、ハシャブヤはブンニの子である。
11:16 また、レビ人のかしらのうちシャベタイとエホザバデは、神の宮の外まわりの仕事をつかさどっていた。
11:17 また、ミカの子マタンヤ。ミカはアサフの子のザブディの子である。マタンヤは祈りの時に感謝の歌を歌い始める指導者、バクブクヤはその同族の副指導者であった。また、シャムアの子アブダ。シャムアはエドトンの



子のガラルの子である。
11:18 聖なる都にいるレビ人は合計二百八十四人であった。
11:19 門衛では、アクブとタルモン、および門の見張りをする彼らの同族で、百七十二人であった。
11:20 そのほかのイスラエルの人々、祭司、レビ人たちは、ユダのすべての町で、それぞれ自分の相続地にいた。
11:21 宮のしもべたちはオフエルに住み、ツイハとギシュバは宮のしもべたちをつかさどっていた。

エルサレムは都であるゆえに敵の攻撃を受けやすく、重要であるゆえに危険でした。また耕作にも牧畜にも適さないところで、ここに住むのは人間的なまたは打算的なメリットはない場所です。しかし、主の都を守るため、その働きをするために、多くの人々が喜んでここに住むことを選んだのです。

神様は彼らの働きを具体的に記し、その勇気と献身を讃えました。私たちも同じで、主のために道を選び取る者は主に覚えられます。そして主の栄光と祝福をいただくことになります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 火曜

ネヘミヤ



11:22 エルサレムにいるレビ人の監督者は、バニの子ウジであった。バニはハシャブヤの子、ハシャブヤはマタンヤの子、マタンヤはミカの子である。ウジはアサフの子孫の歌い手の一人で、神の宮の礼拝を指導していた。

11:23 歌い手たちには王の命令が下っていて、日課が定められていた。

11:24 また、ユダの子ゼラフの子孫の一人で、メシェザブエルの子ベタフヤは、民に関するすべての事柄について王を助ける役を務めた。

11:25 農地がある村々で、ユダの子孫の一部が住んだのは、キルヤテ・アルバとそれに属する村々、ディボンとそれに属する村々、エカブツェエルとその村々、

11:26 ヨシュア、モラダ、ベテ・ペレテ、

11:27 ハツアル・シュアル、ベエル・シェバとそれに属する村々、

11:28 ツィクラグ、メコナとそれに属する村々、

11:29 エン・リンモン、ツオルア、ヤルムテ、

11:30 ザノアハ、アドラムとそれらに属する村々、ラキシユとその農地、アゼカとそれに属する村々であった。こうして彼らは、ベエル・シェバからヒノムの谷までの一帯に住みついた。

11:31 ベニヤミンの子孫は、ゲバから、ミクマス、アヤ、ベテルとそれに属する村々、

11:32 アナトテ、ノブ、アナネヤ、

11:33 ハツオル、ラマ、ギタイム、

11:34 ハディデ、ツェボイム、ネバラテ、

11:35 ロデとオノ、および職人の谷に住んだ。

11:36 レビ人のうち、ユダにいたある組はベニヤミンに加わった。

ここで、一人一人の働きがさらに具体的に記されています。これらの献身がなければ神の都は立ち行かなかったでしょう。

それは教会も主の宣教の同じです。主は私たちの献身的な働きを決して忘れることはありません。天に記されているのです。またその働きを用いてくださり、役に立つ者としていてくださいます。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



25日 水曜

ネヘミヤ

12:1 シェアルティエルの子ゼルバベルおよびヨシュアと一緒に上って来た、祭司とレビ人は次のとおりである。セラヤ、エレミヤ、エズラ、

12:2 アマルヤ、マルク、ハトシュ、

12:3 シェカンヤ、レフム、メレモテ、

12:4 イド、ギネトイ、アビヤ、

12:5 ミヤミン、マアデヤ、ビルガ、

12:6 シェマヤ、エホヤリブ、エダヤ、

12:7 サル、アモク、ヒルクヤ、エダヤ。以上はヨシュアの時代に、祭司とその同族のかしらであった者たちである。

12:8 また、レビ人では、ヨシュア、ビヌイ、カデミエル、シェレベヤ、ユダ、マタンヤで、感謝の歌を受け持っていたのはマタンヤとその兄弟たちであった。

12:9 また、彼らの兄弟のバクブクヤとウンニは、務めのときには彼らの向かい側に立った。

12:10 ヨシュアはエホヤキムを生み、エホヤキムはエルヤシブを生み、エルヤシブはエホヤダを生み、

12:11 エホヤダはヨナタンを生み、ヨナタンはヤドアを生んだ。

12:12 次に、エホヤキムの時代に、祭司で一族のかしらであった者は次のとおりである。セラヤ族ではメラヤ、エレミヤ族ではハナンヤ、

12:13 エズラ族ではメシュラム、アマルヤ族ではヨハナン、

12:14 メリク族ではヨナタン、シェバンヤ族ではヨセフ、

12:15 ハリム族ではアデナ、メラヨテ族ではヘルカイ、



12:16 イド族ではゼカリヤ、ギネトン族ではメシュラム、

12:17 アビヤ族ではジクリ、ミンヤミン族、モアデヤ族ではピルタイ、

12:18 ビルガ族ではシャムア、シェマヤ族ではヨナタン、

12:19 エホヤリブ族ではマテナイ、エダヤ族ではウジ、

12:20 サライ族ではカライ、アモク族ではエベル、

12:21 ヒルクヤ族ではハシャブ、エダヤ族ではネタンエル。

ゼルバベルは神殿再建に尽力した人です。彼と一緒にエルサレムで礼拝の奉仕をした人々がここに記されています。さらにはその出生なども記されており、信仰やその働きには親の影響も重要であることが暗示されています。

礼拝の奉仕は何よりも、神様の価値観が重要です。技術ではなく、主のみこころを行いたい、表したいという聖なる思いです。この世の見える部分にや移ろいゆく価値観に左右されているは成り立たないのです。私たちもそのような思いで、揺るぎない永遠の価値観で奉仕しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 木曜

ネヘミヤ

12:22 エルヤシブ、エホヤダ、ヨハナン、ヤドアの時代にレビ人は一族のかしらとして登録され、また、祭司はペルシア人ダレイオスの治世に登録された。

12:23 レビの子孫で一族のかしらたちは、エルヤシブの子ヨハナンの時代まで、年代記に記されていた。

12:24 レビ人のかしらたちは、ハシャブヤ、シレベヤ、およびカデミエルの子ヨシュアであり、その兄弟たちが彼らの向かい側に立って、組と組が相応じて、神の人ダビデの命令に基づき、賛美をして感謝をささげた。

12:25 マタンヤ、バクブクヤ、オバデヤ、メシュラム、タルモン、アクブは門衛で、門の倉を見張っていた。

12:26 以上はエホツァダクの子ヨシュアの子エホヤキムの時代と、総督ネヘミヤ、および学者である祭司エズラの時代の人々である。

12:27 エルサレムの城壁の奉獻式に際して、彼らはあらゆる場所からレビ人を捜し出してエルサレムに連れて来た。シンバルと琴と豎琴に合わせて感謝の歌を歌い、喜びをもって奉獻式を行うためであった。

12:28 歌い手たちは、エルサレムの周辺の低地やネトファ人の村々から、

12:29 またベテ・ギルガルやゲバとアズマウェテの農地から集まって来た。この歌い手たちは、エルサレムの周辺に自分たちの村々を建てていたのである。

12:30 祭司とレビ人は自分たちの身をきよめ、また民と門と城壁をきよめた。

祭司やレビ人のことが書かれています。どちらも礼拝の重要な役目を担う人々です。祭司はイエス様



のあがないのひな型である、ささげものなどを司り、レビ人は律法や賛美などの働きをします。

イスラエルは他国から守られることや、農業が豊かであることを求めましたが、このように信仰の面でも働き人が必要でした。なぜならそれらの守りと豊かさを与えてくださるのは神様であり、その神様への信仰こそが何よりも重要だからです。

その信仰を守ることこそ、豊かさや安心の要です。私たちも同じです。主の働き人を尊重しましょう。また自分自身も働き人となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 金曜

ネヘミヤ

12:31 私はユダの長たちを城壁に上らせ、感謝の歌をささげる二つの大きな賛美隊として配置した。一組は城壁の上を右の方に、糞の門に向かって進んだ。

12:32 彼らのうしろに続いて進んだ者は、ホシャヤとユダの長たちの半分、

12:33 アザルヤ、エズラ、メシュラム、

12:34 ユダ、ベニヤミン、シエマヤ、エレミヤであった。

12:35 祭司のうちのある者もラツパを持って進んだ。まず、ヨナタンの子ゼカリヤ。ヨナタンはシエマヤの子、シエマヤはマタンヤの子、マタンヤはミカヤの子、ミカヤはザクルの子、ザクルはアサフの子である。

12:36 次に、ゼカリヤの兄弟たちシエマヤ、アザルエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニで、神の人ダビデの楽器を持って続いた。学者エズラが彼らの先頭に立った。

12:37 彼らは泉の門のところで、城壁の上り口にあるダビデの町の階段をまっすぐに上り、ダビデの家の上を通過して東の方の水の門に来た。

12:38 感謝の歌をささげるもう一組の賛美隊は、左の方に進んだ。私はそのうしろに従った。民の半分は城壁の上を進み、炉のやぐらの上を通過して、幅広の城壁のところに進み、

12:39 エフライムの門の上を通り、エシャナの門を過ぎ、魚の門と、ハナンエルのやぐらと、ハ・メアのやぐらを過ぎて、羊の門まで進んだ。そして監視の門で立ち止まった。

12:40 こうして、感謝の歌をささげる二つの賛美隊は神の宮で位置についた。私も、私と



ともにいた代表者たちの半分もそうした。

12:41 また祭司たち、エルヤキム、マアセヤ、ミンヤミン、ミカヤ、エルヨエナイ、ゼカリヤ、ハナンヤもラツパを持って、そこにいた。

12:42 また、マアセヤ、シエマヤ、エルアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラム、エゼルもいた。こうして、歌い手たちは歌い、イズラフヤが指揮をした。

12:43 彼らはその日、数多くのいけにえを献げて喜んだ。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜んだので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。

12:44 その日、財宝や、奉納物、初物や十分の一を納める部屋を管理する人たちが任命され、祭司とレビ人のために律法で定められた分を、町々の農地からそこに集めた。これは、職務に就いている祭司とレビ人をユダの人々が喜んだからである。

12:45 彼らは、自分たちの神への任務ときよめの任務を果たした。歌い手や門衛たちも同様であった。ダビデとその子ソロモンの命令のとおりである。

12:46 昔から、ダビデとアサフの時代から、歌い手たちのかしらたちがいて、神への賛美と感謝の歌がささげられた。

12:47 ゼルバベルの時代とネヘミヤの時代、全イスラエルは、歌い手と門衛のために定められた分を日ごとに渡していた。彼らはまたレビ人の分を聖別し、レビ人はアロンの子らの分を聖別していた。

城壁が完成して喜びの礼拝がささげられた。ここでは奉仕者をたたえることにはありません。

ほめたたえるのは神様だけです。もっともそのために神殿がそして城壁が建てられたのです。彼らも自分が褒められるよりも、神様がたたえられる方が嬉しかったでしょう。なので、その声は遠くまで聞こえたのです。

教会とは本来そのようなものです。互いに感謝するのは、神様がほめたたえられて、その声が遠く響いてからの話です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



28日 土曜

ネヘミヤ



13:1 その日、民が聞いているところでモーセの書が朗読され、その中に、アンモン人とモアブ人は決して神の集会に加わってはならない、と書かれているのが見つかった。

13:2 それは、かつて彼らが、パンと水をもってイスラエル人を迎えることをせず、かえってバラムを雇ってイスラエル人を呪わせようとしたからであった。私たちの神はその呪いを祝福に変えられた。

13:3 民はこの律法を聞くとすぐに、混血の者をみなイスラエルから切り離した。

13:4 これより以前、祭司エルヤシブは、私たちの神の宮の部屋を任されていて、トビヤと親しい関係にあったので、

13:5 トビヤのために一つの大きな部屋をあてがっていた。以前その部屋は、穀物のささげ物、乳香、器、またレビ人や歌手や門衛たちのために定められていた、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一、さらに祭司のための奉納物を保管するところであった。

13:6 この間ずっと、私はエルサレムにいなかった。私が、バビロンの王アルタクセルクセスの三十二年に王のところに行き、その後しばらくして王にいとまを乞い、

13:7 エルサレムに帰って来たからである。そのとき私は、エルヤシブがトビヤのために行った悪、すなわち、神の宮の庭にある一つの部屋を彼にあてがったことに気づいた。

13:8 私は大いに気分を害し、トビヤ家の家財をすべてその部屋から外へ放り出し、

13:9 命じて、その部屋をきよめさせた。そして私は、神の宮の器を、穀物のささげ物や乳香と一緒に再びそこに納めた。

大いなる喜びからモーセの書の朗読に移りました。このように主の前の喜びは主のみこころを聞くためにあります。私たちも礼拝で、大いなる喜びの賛美の後に、主のことばを聞きましょう。

トビヤは再建工事を邪魔した者でありましたが、人間的な理由で神殿に利権を持っていました。そのようなことは、神よりも人の都合を優先させるものですから、ネヘミヤはこれを処分したのです。

私たちも、自分の都合や利権で、神様の利を損なっていないか考えてみることも大切です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情やしよ願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



13:10 また私は、レビ人の分が支給されていなかったために、務めに当たるレビ人と歌い手たちが、それぞれ自分の農地に逃げ去っていたことを知った。

13:11 私は代表者たちを詰問し、「どうして神の宮が見捨てられているのか」と言った。そして私はレビ人たちを集め、元の職務に就かせた。

13:12 ユダの人々はみな、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一を貯蔵庫に持って来た。

13:13 そこで私は、祭司シェレムヤ、学者ツアドク、レビ人の一人ペダヤに貯蔵庫を管理させ、マタンヤの子ザクルの子ハナンを彼らの助手とした。彼らが忠実な者と認められていたからである。彼らの任務は仲間に分配をすることであった。

13:14 私の神よ、どうか、このことのゆえに私を覚えてください。私が神の宮とその務めのためにした数々の誠実な行いを、ぬぐい去らないでください。

13:15 そのころ私は、ユダのうちで安息日にぶどう踏みをしている者、麦束を運んでいる者、また、ろばに荷物を負わせている者、さらに、ぶどう酒、ぶどうの実、いちじくなど、あらゆる品物を積んで、安息日にエルサレムに運び込んでいる者を見つけた。それで私は、彼らが食糧を売ったその日に、彼らを戒めた。

13:16 また、そこに住んでいたツロの人々も、魚などあらゆる商品を運んで来て、安息日に、しかもエルサレムでユダの人々に売っていた。

13:17 そこで、私はユダの有力者たちを詰問して言った。「あなたがたが行っているこの悪事は何か。安息日を汚しているではないか。

13:18 あなたがたの先祖も、このようなことをしたので、私たちの神はこのすべてのわざわいを、私たちとこの都の上にもたらされたのではないか。それなのに、あなたがたは安息日を汚して、イスラエルの上にもたれもや御怒りを招こうとしている。」

13:19 安息日の前、エルサレムの門に夕闇が迫ると、私は命じて扉を閉めさせ、安息日が終わるまでは開いてはならないと命じた。そして、私の配下の若い者の何人かを門の見張り立て、安息日に荷物が持ち込まれないようにした。

13:20 それで商人やあらゆる品物売る者たちは、一、二度エルサレムの外で夜を過ごした。

13:21 そこで、私は彼らを戒めて言った。「なぜ、あなたがたは城壁の前で夜を過ごすのか。もう一度このようなことをすれば、私はあなたがたを処罰する。」その時から、彼らはもう安息日には来なくなった。

13:22 また私はレビ人に、安息日を聖なるものとするために、彼らが身をきよめ、門の見張りとして来るように命じた。私の神よ、このことにおいても、どうか私を覚えてください。そして、あなたの豊かな恵みにしたがって私をあわれんでください。

「…安息日を汚している」というのは、神様を汚しているということになるので、「悪事」という表現を、ネヘミヤは用いています。安息日を守る、すなわち現代で言えば日曜の礼拝を守るということは、自分自身は神に従っているということの証明でもあります。逆に礼拝を守らないということは、神を二の次にしているということ、

この世に神以上に権威のあるものがあってそれに従っているということになるのです。

旧約時代であれば、それは死を意味しましたが、新約時代の今は霊的な命が疲弊するという意味で、死に向かうこととなります。神を信じるクリスチャンが礼拝を守らないということでは、神はその程度の存在であると、世に示しているようなものです。

自分自身が礼拝を守るとは、実に大きな証しであり、主のお役に立っているということ、を自覚し感謝しましょう。礼拝を守ること、でどれほど主に喜ばれているかを覚えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

